

【ワークシート】

◎課題1

「危険ドラッグ」ってなんだろう？ どんな特徴があるか知ってる？

- (例) ●危険ドラッグは、覚醒剤や大麻等に構造を似せて作られた物質を乾燥させた植物片や液体、粉末等に混ぜ込んだもの。
- 法の網をくぐり抜けるため、見た目では危険な薬物と分からないように、乾燥植物片に混ぜ込んで「ハーブ」、液体に混ぜ込んで「アロマ」、粉末に混ぜ込んで「バスソルト」等と称して、目的を偽装して販売されることも多い。

◎課題2

「危険ドラッグ」を乱用した場合、どんな悪い影響があるんだろう？

- (例) ●使用すると、覚醒剤等と同じか又はそれ以上に心身に悪影響を与える。
- 実際には含まれている物質の種類や量が分かっていないため、どんな健康被害が出るか分からないものも多くある。
- 幻覚や意識障害等を起こしたり、嘔吐、頭痛、手足のけいれん等の症状を起こし救急搬送された事例や交通事故等他人を巻き込む事例が報告されている。

◎課題3

こんな誘われ方をしたら、どう断る？ 断ってみて。

- 1) 友達の家で、仲良し3人組が集まって、ゲームをして遊んでいます。「なんか面白いことないかなあ。」などと話をしているうちに、友達が薬のようなものを出しました。

「この前、兄貴の先輩からこれもらってん。頭がスカッとするらしいねん。一緒にやってみよや。」

- 2) 久しぶりに会った中学時代の陸上部の先輩とお茶を飲みながら話している時に、大麻のようなものを勧められました。

「これめっちゃええで。体のキレが信じられへんくらいになって、タイム縮まってん。ほんまやで。」

- 3) お姉ちゃんの知り合いが経営しているお店の女性店員さんからカラフルな錠剤を進められました。

「これ1回飲んでみてみ。痩せるでえ。どんな服でも似合うようになるで。」

◆◆◆ コラム ◆◆◆

薬物乱用防止教育と ICT の活用

～ICT を活用して意見の共有を図り思考を深める～

- 授業の中でインターネットを活用し、最近報道された薬物事犯等を調べながら学習すると、より身近なことと感じられたりするなど、より理解が深まります。
- タブレット端末を活用してグループワークで考えた「薬物乱用を誘われた時の断り方」や「大麻についての意見」等をスクリーンに映し出してクラス全員で共有し、更なる意見交換へ導く等、ICT を活用すると、効果的な指導が期待できます。